

## 表現の効果について考える

### 1 指導のねらい

- (1) 短歌を読み、内容や表現の仕方について考えたり、感想を交流したりすることができる。
- (2) 表現上の特徴を理解し、短歌を味わったりつくったりすることができる。

### 2 指導過程

学習活動と発問 (発は発問)	指導上の留意点と評価 (評は評価)
<p>(1) 本時の学習のめあてを確かめる。</p> <p>(2) 学習プリント①にある短歌と鑑賞文について ①どのような心情や情景を歌った短歌であるかを考える。</p> <p>②表現の効果について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発 「ドクンドクン」「ふうわり」は何を表しているのだろうか。また、使うときと使わないときとで印象の違いはあるのだろうか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発 最初につくられた短歌と完成した短歌を比べて、どのような印象の違いがあるだろうか。</p> </div> <p>(3) 「はらはらと」という擬態語を使って書く。 ①「はらはらと」のイメージを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発 「はらはらと」から連想するものは何だろうか。また、それらにかかわって自分が見たり聞いたりしたことを挙げてみよう。</p> </div> <p>②短歌をつくり、その紹介文を書く。</p> <p>(4) 書き上がった短歌と紹介文を読み合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌において、様々な表現の効果について考えることを知らせる。</li> <li>評 学習のめあてをとらえ、進んで学習に取り組もうとしているか。</li> <li>・学習プリント①は、国語の時間に各自作成した短歌に紹介文をつけて発表したものであることを確かめる。</li> <li>・表現技法が用いられているときとそうでないときの違いを考えさせる。</li> <li>評 擬音語・擬態語の効果について理解しているか。</li> <li>評 倒置法の効果について理解しているか。</li> <li>・4人程度のグループで話し合わせる。</li> <li>評 イメージを広げ、進んで話し合いに参加しているか。</li> <li>・学習プリント②を用いて短歌（定型）とその紹介文を条件に合わせて書かせる。</li> <li>評 擬態語の効果やイメージを考え、作品を作ることで、短歌を味わっているか。</li> <li>評 相互交流により、相手の短歌や紹介文のよさを発見できているか。</li> </ul>

【短歌と鑑賞文・A】

(短歌)

目をつぶり両手を合わせ天<sup>あお</sup>仰ぐドックンドクン発表のとき

(紹介文)

この短歌は、吹奏楽コンクールの結果発表、つまり成績発表の瞬間のときのことを詠<sup>よ</sup>んだものです。コンクールの結果発表はすべての演奏が終わったあと行われます。熱気と緊張がピークに達しながらも静まりかえった満員のホールの中、自分の心臓の音が「ドックンドクン」とドラムのリズムのように聞こえてくるのが分かりました。

【短歌と鑑賞文・B】

(短歌)

風に乗る春はふうわりやってきましたあちらの空もこちらの海も

(紹介文)

この短歌は、家族で春先に旅行に出かけたときのことを思い出して作りました。よく晴れ渡った朝、海岸沿いを家族でのんびりと歩いていました。空や海を眺めているうち、やさしい風が見えない春を運んできてくれるような気がして、その様子を「ふうわり」と表現してみました。

【最初につくった短歌B】

風に乗るこちらの海もあの空も春はふうわりやってきました



岡田おかださんの学級では、国語の時間に各自がつくった短歌に紹介文を付けて発表することにしました。次の【A】、【B】はその一部です。これらを読んであの問いに答えなさい。

【A】

(短歌)

目をつぶり両手を合わせ天仰あおぐドックンドクン発表のとき

(紹介文)

この短歌は、吹奏楽コンクールの結果発表、つまり成績発表の瞬間のときのことを詠よんだものです。コンクールの結果発表はすべての演奏が終わったあとに行われます。熱気と緊張がピークに達しながらも静まりかえった満員のホールの中、自分の心臓の音が「ドックンドクン」とドラムのリズムのように聞こえてくるのが分かりました。

【B】

(短歌)

風に乗り春はふうわりやってきたあちらの空もこちらの海も

(紹介文)

この短歌は、家族で春先に旅行に出かけたときのことを思い出して作りました。よく晴れ渡った朝、海岸沿いを家族でのんびりと歩いていました。空や海を眺めているうち、やさしい風が見えない春を運んできてくれるような気がして、その様子を「ふうわり」と表現してみました。

一 【A】【B】はどちらも擬音語・擬態語を使った短歌です。これらを使うことによってどのような表現の効果があると考えられますか。

二 【B】の短歌は当初、次の表現技法の効果にふれながらその違いを述べなさい。

風に乗りこちらの海もあの空も春はふうわりやってきている

三 「はらはらと」という擬態語を使って短歌をつくり、【A】、【B】のように、それについての紹介文を書きなさい。ただし、あとの条件にしたがうこと。

条件 1 短歌は定型（五七五七七）でつくること。

条件 2 紹介文は百字以上百四十字以内で書くこと。

出題のねらい

- ・短歌における表現の効果について考えることができるかどうかをみる。
- ・表現の仕方を工夫して短歌をつくり、それに合う紹介文を書くことができるかどうかをみる。

【解答例】

一 (例) 短歌にリズムが生まれ、様子や状態などをよりの確に伝えられる。

二 (例) 完成した作品には倒置法が用いられていて、春の気配があちこちから感じられる様子が強調されている。

三 (例) (短歌) はらはらとこぼれる涙とめられず友の苦しみ私の痛み

(紹介文)

友達が部活動で悩んでいたときのことをよみました。練習しても練習してもなかなか上達しない自分のプレーにいらだち、チームメイトともうまくいっていなかった友達のぶつけるような思いを私はずっと聞いていました。ただそれだけだったのに、友達の苦しみが移ったかのように私も涙がこぼれていました。(百四十字)

\* 次の条件を満たして書いているもの、紹介文の内容は心情または情景がしっかりと書かれているものを正答とする。

条件1 短歌は「はらはらと」という擬態語を用い、定型で書いている。

条件2 紹介文は百字以上百四十字以内で書いている。